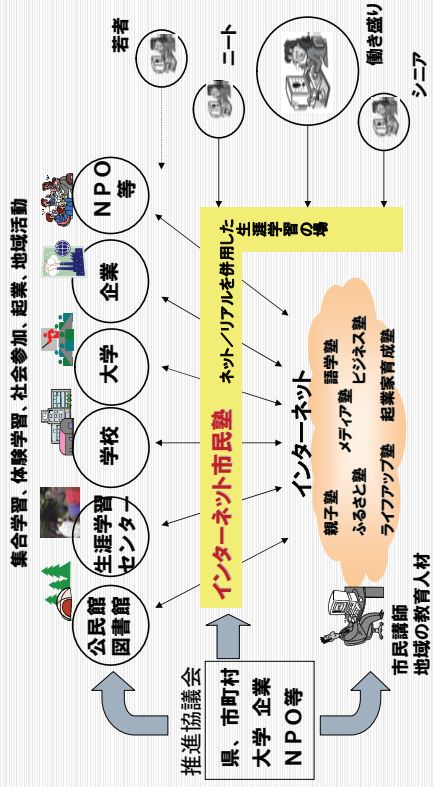


ICTを活用した地域プラットフォーム

インターネット市民塾の取り組み

株式会社インテック

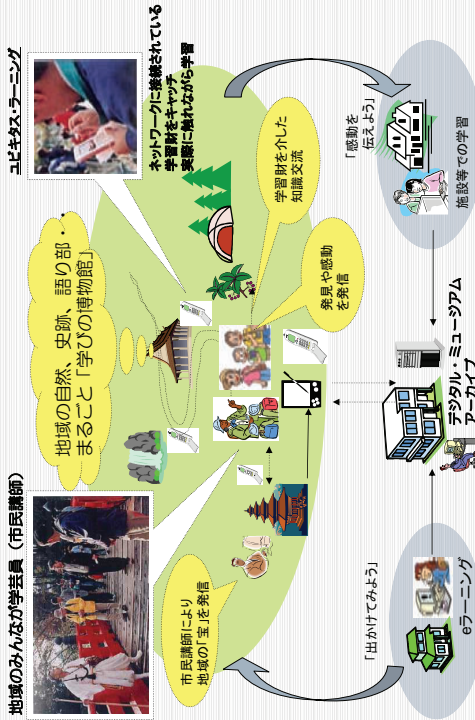
インターネット市民塾のしくみ



講師：0000
Webテキスト制作、講座進行：ITボランティア(4名)
構成：ネット学習2ヶ月、スクーリング3回
受購者からのレポート、受購者による交流

■ 地域デジタルミュージアム

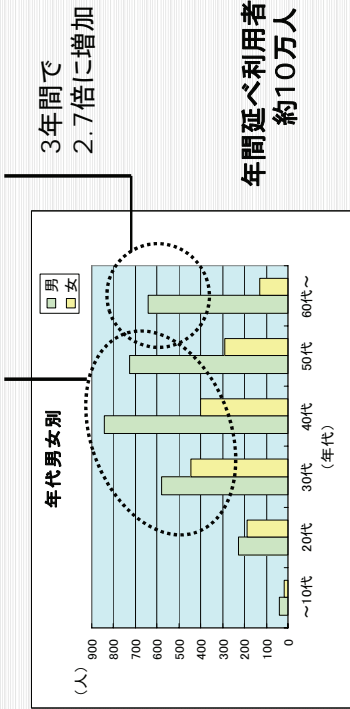
住民による地域情報化の取り組みとして



■ 幅広い世代が参加

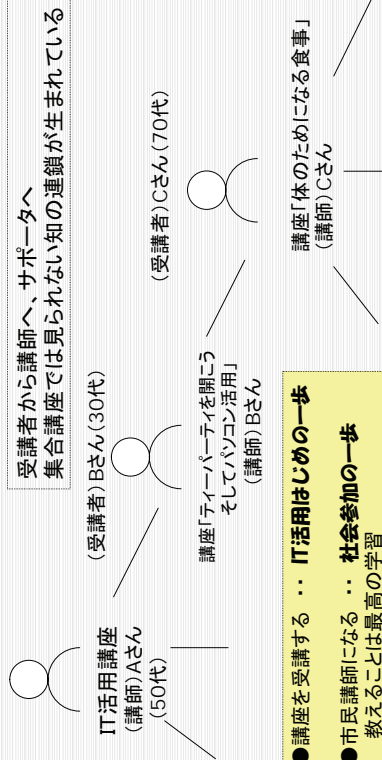
働き盛りの世代が多く参加

シニアも増加!



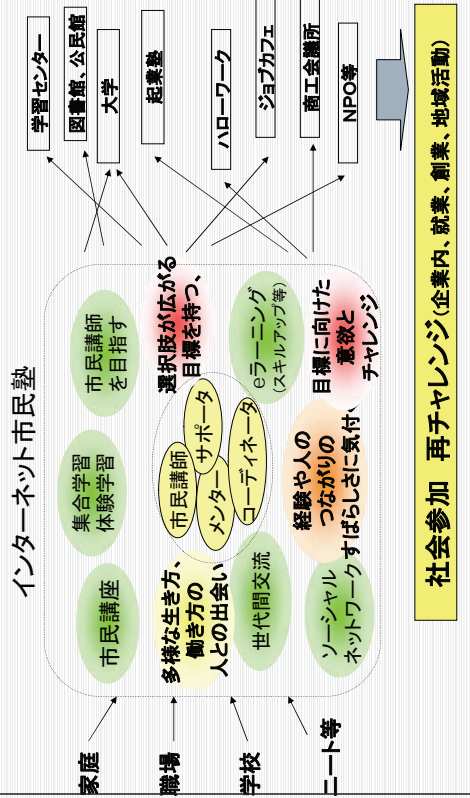
世代間交流
が生まれやすい

■ 知の世代連鎖



- 講座を受講する ... IT活用はじめの一歩
- 市民講師になる ... 社会参加の一歩
教えることは最高の学習
教えることは自身のエンパワーメント
- 地域が見える ... チャレンジの一歩
選択肢が見える

■ 人のつながりが学びとチャレンジ意欲を育てる



社会参加 再チャレンジ (企業内、就業、創業、地域活動)

■ インターネット市民塾での社会参加、再チャレンジ事例

事例-1

30代女性、結婚を機に退職後自宅からネット講座を開講。教えることの充実感を持ち、講師経験を重ね研鑽。現在、地元の小学校や学習センターで非常勤講師を務めている。自宅でも教室を開き、シニアの情報活用を支援。

事例-2

40代男性、昨年企業をやむなく退職。市民塾でのサポート活動を通じてIT活用技術を磨き、講座開催を契機に地域の人の繋がりを広げ、コンテンツ制作などを主な業務とする事業を開業。

事例-3

障言を持つ青年が、テブ起こしのスキルとともに地域の人の繋がりを得ることで、在宅での就労機会を獲得。社会参加できなかったときの障音の程度も見られ、さらに地域の繋がりが生まれている。

事例-4

20代男性、現在ニート状態にあるが、社会との接点を少しだけ持ちたいと、市民塾のサポートに応募。主役にはなりたくないが、講座のアシスタント的な活動を通じて少しずつ交流。

(写真省略)

■ 地域プラットフォームとしての波及

